

## 就任ご挨拶

会長 小谷 幸次



今回の改選により会長の要職を担うことに成り、身の引き締まる思いでいっぱいでございます。

さて、農業を取り巻く環境は厳しさを増す中、農産物の輸出入問題、農業に関する色々な問題を抱えWTO交渉が開かれましたが、輸入国、輸出国の意見の折り合いが付かず交渉は決裂を見ています。輸入関税の引き下げ、重要品目の削減等を心配していたところで、ひとまず一息ついた感はあるのですが、今後の成り行きが心配です。経済界ではWTO交渉の決裂に伴い、EPA交渉を急ぐべきとの声が強まっています。農業が経済界の犠牲に成りほしくないか注視して行かなくてはと思っています。

また、燃油、農業資材の高騰は止まる所を知りません。農業経営に大きな打撃と成っております。経営の圧迫により農業離れに拍車がかかりはしないか心配です。行政、関係機関に助成措置を要請しているところであります。

農地政策、担い手の育成確保、遊休農地の解消など問題点は多くありますが、一つ一つ立ち向かって行かなくてはと思っています。

非才な私ではありますが、農家の皆様のご意見、お知恵を頂きながら努めてまいりますので宜しくお願い致します。

## 農業委員として

職務代理 賀山 仁司



今回で三期目となりました。近年わが国の食糧事情は大きく変化

そろそろ水稻の収穫作業は終わりになりますが、今年は豊作の状況で終わりそうです。米価が下がりはしないか心配の感があります。機械作業には十分に気をつけて、事故のないように豊作の喜び、収穫の喜びを味わって頂きたいと思っています。

してきており、食料安全保障の確立が急がれる様になりましたが、その為には農業者がいなくては到底無理な事です。わが岩美町だけでなく全国的に農業者の減少が一つの問題となつていきます。国は食料自給力の強化を図ることが不可欠であるとは言っており、農地を守る担い手がいないと無理な事です。兼業農家の方々が米作りをして生活が楽になる。専業農家の方々が一年を通して農業で生活出来る様にならなくては、食料自給率の向上も農地を守る事も無理な事です。

## 農業委員を受諾して

寺合さくら



この度、思いもよらず農業委員を受けました。大変後悔

をしています。でも受けたのだから後には引けないです。大変難しそうな農業委員の役割等はこれから段々に勉強していきます。

私の抱負は、出来る事ならですが、少子高齢化と農業の問題。高齢者が楽しみながら農業ができ、少しでも収入となり、いつまでも元気で過ごせたら。

又、食育と農業も切り離す事は出来ません。毎日を私達が元気で暮らす為には食です。安心安全な野菜作りが大切です。又、岩美町は岩美町の中の地産地消を定着させることが一番と考えますが、私に何か出来るでしょうか。

## 農業委員になって

山添 友治



周囲の方々に勧められて立候補しましたが、大変な処へ足を踏み

入れたと後悔をする傍ら、反面未知の世界に踏み込んだ緊張と期待と責任の重さに興奮しています。

農用地の利用調整、農家からの諸々の相談、農地のパトロール等々、どれをとっても、とても今の自分には出来そうにありませんが、地域の皆様方、そして先輩委員の皆様、事務局の皆様の指導を頂きながら、しっかりと研鑽し、少しずつでも地域の皆様のお役に立てるように頑張ってみようと気を引き締めています。

中山間事業の運営に身を置きながら常日頃より感じていることは、十年程先の近い未来、この地域の農業は誰がやっているのだろうか？という事です。農地に対しどちらかといえば自己所有意識がまだまだ強い地域の中で農地をどう守っていくのだろうか。集落営農が出来るのか、担い手の育成が出来るのか、大規模農家に頼るのか。じっくりと勉強してみたいと思っています。

## 女性農業委員

### としての活動

濱口 恭子



この度の改選で諸先輩方の心強い応援をいただき、引き続き農業委員を務めさせて頂くことになりました。さて、十年ひと昔と言われて

いた時代が今はほんの三、四年でめまぐるしい変動を感じます。農業委員になって一周年、農業委員会の研修で、初めて大規模な集落営農を島根県の上道地区に視察に行きました。その話を実行組合長をしていた夫に話すと、夫は先輩の沢委員さんに相談をして、かつてやったことのない一泊研修に大谷四区組合員が行きました。視察して、みんなが集落営農を理解されたことが一番大きい収穫だったと思います。

そして七月には地区役員二十名の方が福井県の大型農場に視察研修に行かれた結果、意気投合して集落営農をすることが決まりました。大谷水田、地権者百四十一人、五十二ヘクタールの圃場整備事業は、着工して三年、一区画一ヘクタールの水田の給水はパイプライン・ポンプアップ式となり、労力が省ける方式が採用されましたが、すぐには田植えは困難で、整地するの何日も何日も石拾いをし、漸く取り除いて田植えが始まりほつとしたもつかの間、大型田植機が水田整備不良により、埋まるというアクシデントが起こりました。やむを得ず大型田植機での田植えを一部あきらめ、数人で歩行田植機で田植えをしました。又、稲が育成するにつれ、除草剤の効果が薄く、ひえが稲より高くなつて放置するわけにいかず、数日かけて集落の人達と一致団結してひえ切りをしました。毎日夫と一緒に農作業に出かけ、地域の人達との交流も深まりました。苦勞し